

34:8 【主】のすばらしさを味わい、これを見つめよ。幸いなことよ。彼に身を避ける者は。

皆さん、五感をすべて挙げられますか。視覚、聴覚、嗅覚、触覚、そして味覚です。皆さんはお気づきでしょうか。聖書の著者たちは、この五感すべてを使って神の救いを受け取り味わうよう私たちに励ましてくれます。五感それぞれに聖書箇所をあてはめてみましょう。

- 視覚：「わたしを仰ぎ見て救われよ。」（イザヤ 45:22）
- 聴覚：「【主】のことばを聞け。」（ホセア 4 : 1）
- 嗅覚：「神はいつでも、…キリストを知る知識のかおりを放ってくださいます。」（コリント第二 2 : 14）
- 触覚：「…女が、イエスのうしろに来て、その着物のふさにさわった。…女はその時から全く直った。」（マタイ 9 : 20、22）
- 味覚：「【主】のすばらしさを味わい、これを見つめよ。」（詩篇 34 : 8）

今日の聖書箇所は、ふたつの部分から構成されたヘブル語の詩です。ヘブル語の詩は英語や日本語の詩とは異なります。ヘブル語の詩でカギとなるのは、類似、比較という言葉です。今日の聖書箇所のふたつの部分は、同じことを言っています。味わうことは信じることであり、信じることは味わうことです。

では、このみことばは、今朝私たちに何を語っているのでしょうか。それは、完全な霊の満たしを約束する方法を神が与えてくださっていることです。では、そのすばらしい方法について学んでいきましょう。

まず、神の与えてくださる方法には、急を要する招きが含まれています。「【主】のすばらしさを味わい、これを見つめよ。」（8 節）この招きは、私たち全員に向けられたものです。誰もが招かれています。

ここで詩篇の著者は、主がすばらしいお方であることを味わって見つけ出すように促しています。これはどういう意味でしょう。

神のみことばを味わうことについて考えてみましょう。これに最適な箇所は詩篇 119 : 103 です。これは、著者の個人的な証です。実際、この 119 篇全体が神のみことばについて語っています。103 節で著者は、「あなたのみことばは、私の上あごに、なんと甘いことでしょう。蜜よりも私の口に甘いのです。」と語ります。

では皆さんに質問します。神のみことばは皆さんにとって甘いですか。それとも、無味乾燥なものですか。預言者エゼキエルは、「私はそれを食べた。すると、それは私の口の中で蜜のように甘かった。」（エゼキエル 3 : 3）と神のみことばについて語ります。神のみことばを味わって得られるものは何か、と思いませんか。サムエル第一 14 章には、サウル王の息子ヨナタンについて興味深い記述があります。ヨナタンはペリシテ人との戦いで疲れ果てていました。彼は森の中で、はちみつをしたたっている場所に来ました。それで、持っていた杖をはちみつに浸して食べました。すると、「彼の目が輝いた。」とあります。彼は元気を取り戻し、力がみなぎって目が輝いたわけです。神のみつ効果はこのようなものです。私たちに力づけ、知恵を与えてくれます。

箴言 24 : 13-14 を読みましょう。

24:13 わが子よ。蜜を食べよ。それはおいしい。蜂の巣の蜜はあなたの口に甘い。 24:14 知恵もあなたのたましいにとっては、そうだと知れ。それを見つくと、良い終わりがあり、あなたの望みは断たれることがない。

つまり、神のみことばを味わうことはとても大切だということです。私が皆さんの分も代わって味わうことはできません。ここに、はちみつが入った容器があったとします。そして私が、「これは世界一おいしいはちみつです。とても甘いですから、ぜひ食べてみてください」と言ったとします。けれども、どれだけうまく説明しても、皆さんが実際に自分で食べてみなければ役に立ちません。

ある男の子は、はちみつを買ってくるようにお母さんからおつかいを頼まれました。男の子はお店から家に帰る途中、はちみつが入った入れ物に指を入れました。そして、その指を口に入れます。これを繰り返す様子を見ていた見知らぬおじさんが尋ねました。「その入れ物には何が入っているんだい？」

「はちみつです。」

おじさんは言いました。「わからないな。そのはちみつは甘いのかと君に尋ねたのに、答えてくれなかった。そのはちみつはどれくらい甘いんだい？」

「とっても甘いです。」

「君はおかしな子だね。私はどれくらい甘いのかと聞いたのに、君はとっても甘いと答えるだけだ。本当に、どれくらい甘いか教えてくれないか？」

男の子はこのやりとりがもどかしくなったので、はちみつが入れ物に指を入れ、その指をおじさんに差し出して言いました。「自分で食べてみてください。」

神のはちみつも同じです。自分で味わってみなければなりません。使徒ペテロはペテロ第一2:3で、クリスチャンとして成長したいと思っているなら、すでに主がいつくしみ深いお方であることを味わっているはずだと言います。

聖書という書き記された神のみことばを味わいましょう。しかし、まださらにすばらしいものがあります。それは、生ける神のみことばである主イエス・キリストを味わうことです。これこそ味わうことの極意です。今日のみことばには、「味わい、これを見つめよ。」とあります。何を見つめるのでしょうか。「主のすばらしさ」をです。ペテロが今日の聖書箇所を引用した際、主がいつくしみ深いお方であるということを強調しました。皆さん、イエスがいつくしみ深いすばらしいお方であるということをわかっていますか。ある商品の広告に、「もし大好きになっていないなら、まだ味わっていないからだ」というのがありました。

ソロモンの書いた雅歌では、王とその愛する女性との関係が描かれています。そこで女性は王を美しい木にたとえて言います。「私はその陰にすわりたいと切に望みました。その実は私の口に甘いのです。」ここにクリスチャンがお手本にできることがあります。聖書を読む場所を選びましょう。「私はその陰にすわりたい」そして喜んで開きましょう。「切に望みました。」そして、その実をいただきます。「その実は私の口に甘いのです。」これを静思の時と呼びます。

その実を喜んでいただく方法をひとつおすすめします。奴隷商人だったジョン・ニュートンは、救われて牧師となりました。彼は数多くの賛美歌を残しました。中でも一番有名なのは、「驚くばかりの」です。ニュートンは「イエス 君の御名はたえなるかな」という歌いだしの賛美歌も書きました。イエスの名について学んでみてはいかがでしょうか。それがあまりにも大きな題材だと思えば、ヨハネの福音書に登場するイエスの名を学んでみてもよいでしょう。イエスが、「わたしは」と語っておられる箇所をすべて見つけ出し、それぞれのすばらしさを味わってみましょう。

では次に、完全な満たしを与える神の方法に関する今日のみことばは、二部構成になっており、互いに類似・比較の対象となっています。これまでに、主のすばらしさを味わって知るようにと

いう招きについて学びました。後半は、祝福の告知です。「幸いなことよ。彼（神）に身を避ける者は。」これが、味わうことの単純な解釈です。

そのつながりに気づきましたか。味わうためには何が必要でしたか。信じることです。では、信じるためには何が必要でしたか。味わうことです。このふたつの要素は、表裏一体というわけです。主のすばらしさを体験したければ、神が与えてくださるものを味わわなければなりません。祝福を得たければ、神を信頼しなければなりません。

このふたつの要素を、私は「神が与えてくださった満足を得る方法」と呼んでいます。この世には、私たちに満足を提供してくれると約束するあらゆる方法が存在します。娯楽、富や権力、知識、などいろいろありますが、どれひとつとして完全な満足を与えてはくれません。以前、「違いを味わおう」と謳った飲料水の広告がありました。もし皆さんがこれまでこの世のものに満足を求めていたなら、今朝皆さんにお勧めします。来て、違いを味わってみませんか。来て味わい、来て信じましょう。

イスラエルの民にマナが与えられた話を覚えていますか。イスラエルの民はエジプトから救い出されましたが、約束の地に行く途上の荒野にいました。まもなく人々は、荒野に食べ物がないことに気づき、モーセに不平を言いました。しかし神が民の不平を聞かれました。出エジプト記 16 章を今日は読みませんが、そこから神の備えについて学ぶことができます。人々は神が与えてくださった食べ物を「マナ」と呼びました。それは、「これは何だろう」という意味です。

まず、出エジプト記 16 : 31 には、マナについて「その味は蜜を入れたせんべいのものであった。」と語ります。なかなかおいしそうです。民はここで、「【主】のすばらしさを味わい、これを見つめよ。」と言うべきでした。おいしそうなマナを与えてくださったすばらしいお方なのですから。

これは、奇跡による備えです。詩篇 78 : 24-25 は、神が「食べ物としてマナを、彼らの上に降らせ、天の穀物を彼らに与えられた。それで人々は御使いのパンを食べた。神は飽きるほど食物を送られた。」と語ります。このマナは与えられたことだけでなくもうひとつ奇跡があります。出エジプト 16 : 35 を読むと、イスラエルの民がマナを 40 年間食べたとあります。つまり、彼らが荒野をさまよっていた間ずっと、神は彼らの必要を与えてくださったのです。まさに、神に身を避ける者は幸いなのです。

この信頼についてふたつお伝えしておきます。信頼している対象を明らかにしておかなくてはなりません。今日の個所は、主を信頼することについて語っています。自分の良い行いでも、教会員であることでも、什一献金や祈りをしていることでもありません。主を信頼することです。さらに、信頼した先の結末も明確に知る必要があります。神に身を避ける者は幸いであるという結末です。満たされ、喜び、神の約束とご臨在に安らぎを見出すことです。この世の何物も与えることのできないものです。

これが、神が与えてくださった満足を得る方法です。味わい、試し、信頼することです。